

2. [雲南市立病院の建設について]

三刀屋町会場（三刀屋農村環境改善メインセンター）

Q6：事業費について、ここには65億円と記載してあるが、他（新聞）では、建設費が52億、医療機器が8億（その他外溝工事5億円）と記載してある。今回の説明には52億円の説明はないが、この仕事は災害のことを含めて耐震のことを考えてあるが、52億円という数字が規模からしても相当高いと思う。建設費については検証してほしい。先の議会で市議会議員が、雲南市にとって身の丈にあったものを作らなければならないとおっしゃった。なるほどと思った。議員の質問に対して、医師の確保が大切なので、医師から選ばれる病院じゃないといけないとおっしゃっていた。実際、精神科が22年度で廃止されている。市民病院として運営していくにあたって、報酬が低いと聞いたがどうなのか。

A：全国の自治体病院では本当に医師が少なくなっている。一番大きな要因と考えているのは、全国の自治体病院数は1千程度あるが、全病院に占める割合は11%であり、その11%の病院で日本の救急医療の6割程度を自治体病院が担っているのが現状である。自治体病院に勤務するということは、救急医療に寄与することになる。24時間束縛される。特に田舎では逃げ出していく。「同じお金ならば、土日に休める病院に行きたい」ということで、実際医師が出ていってしまう。特に島根県では、雲南や平田市、救急をやっている自治体病院から医師が出て行っている。これが現状である。平成15年に35人の医師がいたが、平成22年に17人になった。一方病床の稼働率は、95%、90%とあまり落ちていない。心ある医師でもっている。今後はというと、雲南市は幸いに地域枠推薦の学生が島根大学に入るが、島根大学で合格するのが多いのは雲南市である。12枠のうち6枠が雲南市出身。卒業して何年か勤めてくれれば、医師は25人ぐらいに維持できるのではないかと考えている。

身の丈にあった規模ということであったが、私は雲南市だけの病院とは考えていない。雲南市をはじめとする雲南医療圏をこの病院が守るという気持ちである。ただ雲南市だけの病院でいいということであれば将来、おそらく共倒れになると思う。今稼働率は90%近く、ニーズがある。規模は最低限必要である。

病床数をみるときに国の地方交付税は1床当たり700千円ぐらいあり、200床とすると年間1億4千万円になる。仮に150床にすると交付税が減るので、あまりメリットがない。病院でもダウンサイズの議論をしたが、あまり経営的にメリットがないということになると、必要とされる病床数は確保したほうがいいのではとなり、この規模を提示しているところである。（病院事業管理者）

A：資料に病院の構内図をつけている。病院の面積は、西棟が8,229㎡、東棟が2,950㎡、南棟が7,090㎡、それ以外も含めて23,000㎡。今回、建設する東棟と南棟は残して、それ以外は14,000㎡の計画になる。市の庁舎が7,300㎡なので3倍以上の面積が必要で、今回14,000㎡の改築ということである。㎡単価は、28万円～29万円で計画している。事業費を抑えていきたいと思っている。

281床で90%の稼働率で回っているということ、将来は、65歳以上の人口は20年間は増える見込みで、医療について現状の規模は必要である。雲南医療圏を守るということでご理解をいただきたい。65億の内訳だが、建設費52億円、用地、解体工事含めて56億円、医療機械が8億円、移転費1億円である。基本構想を作成中なので、金額はまたお知らせしたい。（病院事業副管理者）

要望：地域医療人育成センターというのを聞いた。「恒久的な医師確保に向けて必要だから建設に」ではなく、医師対策プロジェクト基金とか、医師確保ができることを望む。